



と。のりふしぬと。むし天子あ
作せ。を差人頭。ひつてち
角を直す宣下す。と内
侍宣といつて。ほめ。おも
大餐のああくりれつも
大臣の大餐小模様。栗の
休くらへらくらへ。六位差人
主。うどやうで。食事。あざる
言以下。毎が納まがな。か記
大臣小任。せうらへ。大臣大食と
聽。是非。日時。依可。遣。蘿
藤氏。大臣。用。朱器臺盤。
其日。可行。由以職事。達。天
盛折禮二合。一合。蘿大二
一合。粟大。各居士。高切
車。欲。藏人。到中門。蒙
司金奉。蘿耳栗等。
禁祕。拂え拂。便事。依人
依事。有。別藏人頭。近
衛將。五位。藏全。位。差人
坐守也。下界
内侍。うと。うと。うち
女房。左女御。妃天子。宣え
り。し。禁祕。拂え御書
事。右女御。以下。於女房。
無定。子袖。力論。秋。料紙
女房。許多。薄様。後六
檀紙也。上下界
内侍。うと。うと。うち。下界
六位。差人。巡爵。とて。み傳よ
叙誓て。差人。ときりて。下
に。ゆく。よ。いちばん。下
浦給。巡爵のち。受取。と

アアアア
モウセノミノアリ。儒家ノ
紀傳明經トドク。環草
云明經乃ハ三經を含葉
トす。紀傳乃ハ三史史記漢
書後漢書文選等を家
業トス。

トシシムレ。支位ひき
キムニ文草博士從五

位ト。大學博士ハ正六位下
のたあ。友位令トあり
はシテ乃師トテ。帝乃

後師亂也。侍讀も
休シ。禁秘御記傳御侍讀能く可有。
清撰也之所。許明書也。

聖也。清撰追善等も
以テ本朝文粹賞家
文草も。に於く教も
アタシ。是師也。一
是とく一人讀誦も。也
店乃ひ。水をやけ、
脣行啓春宮店も。のれ
あく。を行歌どり。
立店乃たは林中。の
どく。柏大床子。も。う
らふ。辛じ。てハ定。す。の皇
后宮。立り。い。く。ど
の。たは。とき。の。や。正
暦元年六月一日。ふ。せ
業。立地。也。立店の。お
け。う。が。旅。の。居。も。う
ひ。太。木。す。う。居。也。の
あ。あ。大。あ。も。常。は。す
ち。あ。う。わ。も。ま。り。り。も
内。脳。つ。い。わ。く。せ。り

百寮訓要。内脳。同天。あ
供。は。を。も。約。す。あ。よ。よ
バ。脳。部。重。で。よ。お。同。車。
音。ハ。内。脳。の。重。候。う。で。も
と。も。う。も。う。の。内。脳。の。

博士乃ヤ脳。も。不。可。も。う。も。
も。う。セ。ノ。ミ。ノ。ア。リ。ヒ。ト。カ。デ。ト。ア。リ。ト。モ。う。る。
ア。リ。が。ヤ。ム。ト。ア。ケ。ト。イ。レ。ラ。う。ア。レ。ド。モ。世。小。
ア。ク。脳。也。世。も。ア。ム。シ。禁。裏。春。宮。も。ア。シ。テ
ヤ。ム。ト。ア。キ。ヤ。リ。す。それ。ガ。こ。き。し。陸。あ。よ。
ち。ク。づ。き。さ。う。り。ら。ぐ。き。事。う。ご。ど。り。セ。り。す。
店。文。乃。師。ト。テ。ま。す。ハ。サ。で。ま。詩。序。も。く。さ。
が。ゆ。れ。歌。え。と。ら。く。き。そ。の。席。は。く。さ。
一。て。か。め。く。一。と。り。で。ト。一。は。時。乃。さ。へ
あ。る。す。べ。で。リ。ベ。キ。ア。リ。け。す。持。經。者。れ。ひと
さ。う。じ。わ。い。も。う。ね。だ。き。や。く。よ。あ。を。い。と。わ
き。う。經。も。く。も。う。ね。だ。き。や。く。よ。あ。を。い。と。わ
さ。う。じ。わ。い。も。う。ね。だ。き。や。く。よ。あ。を。い。と。わ
て。し。き。せ。ぐ。も。あ。り。て。ソ。う。情。と。き。や
灯。明。も。く。も。う。ね。だ。き。や。く。よ。あ。を。い。と。わ
さ。う。じ。わ。い。も。う。ね。だ。き。や。く。よ。あ。を。い。と。わ
さ。う。じ。わ。い。も。う。ね。だ。き。や。く。よ。あ。を。い。と。わ
肉。脳。法。ヘ。内。い。り。も。う。す。ア。ド。モ。う。る。
い。め。も。う。す。ア。ド。モ。う。る。
さ。セ。ア。モ。ね。一。乃。人。の。ほ。あ。る。一。き。春。日。も。う
て。う。か。び。が。も。う。り。も。す。ア。ド。モ。う。る。ハ
あ。ホ。も。く。さ。で。ト。モ。う。な。れ。だ。と。モ。う。カ
ト。モ。う。る。ア。ド。モ。う。る。禁。も。う。り。も。う。る。ア。ド。モ。う。る。
左。の。歌。を。も。も。も。ハ。ア。ム。シ。六。位。也。人の。肩。玉。姿
う。か。き。ぱ。ろ。い。め。で。ト。一。六。位。乃。ど。の。ぬ。も。う。
こ。乃。が。う。き。あ。も。う。り。も。う。れ。ゆ。く。ふ。め。り

具公はあすとて立店にて候申れ奉
をうとあらや
今上乃えキモヤイチ
立院乃弟ノキモヤイチ
穀康親王行在り者。
内大臣定子されハ
淑父小内大臣伊周
中納言隆家つるど
上車アホ

あまめアキセ
俊秀アキセ

きんくらムキト
持家れ子息清事
さとヤシ

ひしき庭う雪うかうあまく
一ノ山アキモヤ
けめぢう上を走歌あざのようや
けドケあくふりこれさせうく
上人アキモヤはうい
トあうせきうくわがいせど

あまめアキセ

わうやふきドアキアキアモノ
直衣アキモヤ
キスグ。おうけあく童女のう乃
ちあくちとわざとあもあくでかうい
あくつけてゆらん乃

高櫻

えりきら
ル情リ惟えハ生と用
きくら外とモル
性のうじれすと
帳まくらうと

わうやふきドアキアキアモノ
あくえ乃きらアキモヤ
あきアヤアキモヤ
ひこう。あきアキモヤ
きくわうとちく柳乃

高櫻

村濃

ひけらうとあまく
難翁乃竹を経のを
うきくらうとス奈
乃ねうのひづれ
ナえくわのあまく
河海川云松扇乃
方乃上三重で荷舟
てつとまきれあまで
とらうありいしとび
きくをまくらうと
とらうとく

組系乃わく

かげ
組系乃わく

萩皮

葛藤

えりふせらひまき。いづき十二
人。こととろア。、イサキヤシトコホのぶ乃ノ人。坐と
じやくを車かす。に。う
たかす。えりふ女房を十人坐ませま
今。ゆきハ女院上^{マミエ}げ、あや乃人や。づ
セツの正室人とお家令の坐の事。とよかこ
成^{カタ}る。い乃日めわをす
乃^カきね、さくをさせまう。女房よ
がたお^カけとす。せど殿上人よ
きて。お^カく。うか
きくらむ。くらむもくと
きて。まくと。あ^カいと。いと
まくと。赤綴^{カツメ}りまく
ねよまくと。小^カのもくと
まくと。まくと。

す。ふせらへはやまとみよしもちまじ
て。まわやまくわくわくわくわく
あう。ちをきて、もとう
あくのあくさく
す。きらきらとくのくらうびゆいし。神口
れりか。ぱんこくこくふうりひゆいしき。戒集
れをしとじとじとじとじとじとじとじ
か。中將よりてつるよす
あり。山ゆめみと
い。あいよりと
どり。年よきくくけざの

卷之三

もへるにひき

「うそだよ。わたくしは、おまえのことを、
見てあらうとも思ひつかぬふうだ。
おれは

はうさきよ哉集まへるもううおはとう
うひとりあもしにしとくひむれ

かとす日アハ
ごくまく
もわたりと
いは
かく

帝本末にしテモ
事とつゞケテ

あえがまにけ
とあわよき役者

の井、水、は、う、と、く、

日記

口
かた
をうく見たのうと月
のれうそりぱあみ

載集やうふもゆとけ
心原ひしきをかくせう
わう畢竟因はく

痘コトモリ 法華經辟言論

占云君行之于人，齋主
瘡症訪斯經故獲靈

如是 中醫

五年の性其の試験
乃試もよ下ア上

まうりに或ひ不景
どア入へ女房アレハ
亮れ事のアレハ

各の{す}群々^{ムレタタキ}セ

居候
きまつる
やまと

紹運錦二 村上天皇の皇子為平親王を達致

アマと馬すと
そのあとひづき

月の童は死のる
但や月童は死のる

卷之五

細敏平繡は一年と次
乃恒とみ草のうを
連續せず。只あらう
しきゆをもるも

このよりつまよのる
つうのきくを
雲圖抄裏書はほお
川試してか。上級の彼
人を中よ列す。雉
火を舉り車わくス辰
月ノ年会す。舞姫采
上にて於第三間列章。
正教女媧四人秉烛照
舞。此に此時立秋の女媧
火坐立す。12月ノ月
行くもよ。未だ暮れ
追而可考

トモシウツク
上難仕童子
あくまう
（鷺村濃女媧）
山あぬ日ノイ
山藍（山）
や日落（日）
年（年）の用（用）
やるいもこ 椿宮
久家元乃冠番姫母
きく方のゆをすゆを
今傍家代より経をの
すすゆ
脱無 脱乳 乳
行本の差人
雲圖抄十二月五節本
云、一崩藏入爲行事事
有故障之時、二三崩動事
いま栗山行本の差人
と六章の間翻入を禁
するを仍しに改穿を

いじきもんと
ス常の比ハリと也
きくまよをもあ
山あぬ日ノイ
山藍（山）
や日落（日）
年（年）の用（用）
やるいもこ 椿宮
久家元乃冠番姫母
きく方のゆをすゆを
今傍家代より経をの
すすゆ
脱無 脱乳 乳
行本の差人
雲圖抄十二月五節本
云、一崩藏入爲行事事
有故障之時、二三崩動事
いま栗山行本の差人
と六章の間翻入を禁
するを仍しに改穿を

卷五

四

おとねきど立きくわ
女中とり初事れ見る人の

はるか昔の事根

お人か廢衣貶ヒトハシメヒタシ
女房乃出メイブウノシテあいかめうつし
タヅチタヅチにこと
帳基試カウキシ

悵基試

帷基試と云。常寧殿
にて、主上御免あり。又
席の幕返ひ又念。のう

ハ僅志村、也ニ年々
をバ曉夜とづゝ育まつ
國にて農夫がんじゆ

御上人也。脂烛不
サレヌキ

下に上に
防水を隣^{スサ}。上
描写をめぐらす。

此時の心はうつ。但ちも鞠の時、悽其の試み難い。

おまえ、心懐きよからず
すれど、お詫びあらず。ひん

卷之三

江水芽
義圖八重屋

アラキシラニ

嘗試云藏人頭行事，藏

人立舞屏東戶丁角蘆
舞筒林小翻入理髮童女
皆從下土之外不可入頭若

行事藏人之外不能同處

新編蒙古文

今之官也
如是而已

無名 捨茲云上東門院
名物也或說蟬丸琵琶
琵琶上東門院今坐渺

あくちきされど。中々えものありぬす
女房乃出でる。あるいめそつとばくらへと
車のあざう。ちやうじかを。も車乃
差人へとまひあくとてゆつて。ついつうひ
をはせり。童女をし薰炉菌をやめ
二人ともよわからい。やまととまとて。が
ゆきをすでんべ敵士人を。れこれひも
ぞうひいよとのあふ。うやけあり。いそ
れひもて一人もまんと。底本
あく。うへとからく。よつて。ひとかうと。はゆ
人をうり。よつて。ひとかうと。かうりひよる。
店のほくえを。抑壓て。ゆき。れれと。うけで。そよ
人あふともせ。戸を。もと。あけて。ざぶ。りき
れど。おそれて。ひとこはす。らあまこせ。る
とて。ひとこもと。わう。うれよつきて。が。う
はきと。もと。まいる。くき。ひとねみ
ある。うへとからく。よつて。ひとかうと。はゆ
ドカリ。まぐん。わ。もよよしひ。もく
ひとかうと。ひとどい。りひひ。ひひ。ひひ。ひひ
いとら。一。け。う。か。う。わ。き
上下略

卷之五

時亭之時為回祿樓失畢愚案せしれの
といひ候もあれハムウト
トウカ林本よもくゆ
定それは方ともとてわ
くせきよもせざ
のひ上東門邊の多氣
とひうわくうりや

主計の事、淑宗をせき
左義れぬりと
ええさせまう
故歴とハクくれる文
君乃はゆく中國の
主計の事、あらわせむ

勸惣も墜ち、隆家父子
正暦四年推少僧都立
不經律師。寛弘八年四
月推大僧都。卅二長和
四年二月卒。世

とあくまでおどりよき。されば
よいかみやあさきこととす。
そぞろとみ見思へり。
そぞろとみ思ひのまゝ下われとも
もせうひねいとせうそを
え。
今井朝之丞
あげいやうわきてゆめの
はゆにすうがふ
れぢうかえ、あれ、ようさせ
まうとのゆを借るなりき、
我がとべるが、
「まきさん作り。それ、うなせぬ」と
おけいき口づかやあ、いじまつらひ

いふソーテとゆりひ
ま牛を琴よへうすト
きととが、りやれぬけ
るわとく。汝云不不
智是生石也唐人賣
之千石ニ買シトス。イナ
カジト云ケレバ以之爲
名ミ捨故名地那子
トあり
けむと名トハ不智
ヒヨウ牛を陸寄ホ
めねば、久まで口の
ありをもつてよかあい
さのうもと恨みうそ
いもぐらん咲子
古今著聞云々象が撫面
乃給少て之成。二事
教通公作。れども云々象
が撫面。馬上よ
て。あをうりぬ勝
て。とさうて年も

とある。いふ。もせもんごある。
うけられれば思へねえ。
たまのうりのゆを守つての運
のきの。づかへとひがひのめを
とのまのりせり。うがつまゆ
ぶがりあせ。ばくすとくを
きくとえちかゆ。ざわくれへう
めとく。おろへやる。これにまわれ
ざしよ。か。一とくはれ。う
草の音もそよぐと。うるさく
うへ乃はよいよいかへじとく。ゆえ
はあり。はよ。うは。ゆく。も
とく。もく。う。うは。ゆく。も
ひく。ぐく。もく。う。うは。ゆく。
上の象
牧馬
かて
渭濱

すひろくこすし
水龍スイロウ 捨妓名物箇鼻カヒ え
大水龍江記云天曆御宇
寶物小水龍同
ノハリシ捨妓和琴部
云多法師、寛平法皇
貴重餘有此名。河海云
字陀法師、和琴、名物也
以稽作之。一条院御時
内裏焼云之時燒失ミミ
ムギカラ 捨妓箇部釤打
トヨウ 捨妓箇部、兼二
江談曰号朱雀スミツサク、鬼笛、
又号青葉、致於江邊カマキリ
きやうのんのノアム
よも(ガクキ)とわしも
ノ中將のつるぎも(原民
為葉上云は薩摩人宜陽
取引にゆき。代によ
オ一乃名あらう(伊勢
エ、細嶺云宜陽殺貳

がとよめあはうちきよまくじ
わまくまうて。ひとくはや、あ
きびくア。防ぐ乃袖をうちうげてテ
へまセキムメで、まきに。アバよれはひ
カタリとまうけよやふくわづく
カタリとまうけよやふくわづく
で、ちくわうつる人アトモ
はおひき(良見引の辺)からと
あくまかくわんこえやアハ
倡家のシムチ(されどこれハ名もあれども)
アミタ。それつゝて、人よもよありけ
どりをきて、ごちもあもとや
ま直(まつ)す(ある)トテナキモ
けつて、けれども、ヨリセキムア
アトリヤとあんりもせ

筆寫書籍等と云ふ

春明集

はうすけい

おへんじゆく西宮城
云々殿累代御物在宜陽殿。恒例御物納差人所
あるじゆくあらんと

琵琶行元千呼万喚始出來。猶抱琵琶半遮面。是
かのう。倡官のしきりあり。あらもあこぐれを。琴タ書レトセアリ。よせて。つるさし。

もうち別のゆうり。日向

ゆめの太幡

名文代はれ母子で

道階は屋れうい伊里
おきうのはうどまき

めうそて尺種まくも

みよや

あつとく扇

道階は屋れうい伊里
おきうのはうどまき

めうそて尺種まくも

みよや

うへ箇別よ扇を

つうすくわ。うちの隣家
うへ下向の竹扇とつ

りて枇杷の全冬をえ
うへいきのね原

まくも扇の風を長年
れお今よわ。ほ民夕

教まも。え隊が伊え
うへにほ氏君トウ扇を

はうすけい

赤根ますと。日出くに扇
ききととをく。小向

うへとすよ。月向とよ。うへ
あらはもあをう。月向
うへとすよ。月向とよ。うへ

うへとすよ。月向とよ。うへ

うへとすよ。扇

うへとすよ。扇

うへとすよ。扇

はうすけい

赤根ますと。日出くに扇
ききととをく。小向

うへとすよ。月向とよ。うへ
あらはもあをう。月向
うへとすよ。月向とよ。うへ

ソハ中國白道隣の
家ときこゆ。奥よる隣
云々候事もして一切
経化生の所も出ッ
されあうじき

其房を立ろひあよこ
さうり

内々とす。不時替
内々とくす。代をうそ
あるえを

らくとじうす。
其處からくとくかを
縁あるペトア食を
おきのたを。

食ぬのを。底のを
くわへまくし

はせあらせん
衣の背を食せんとす
あり

あんぐりとあけたりゆく内うごしきれ
されあうじき。りきのとあけたりゆく
きくあく。これ只今どきのと。誰と
其房を立ろひあよこ
さうり

内々とす。不時替
内々とくす。代をうそ
あるえを

らくとじうす。
其處からくとくかを
縁あるペトア食を
おきのたを。

食ぬのを。底のを
くわへまくし

はせあらせん
衣の背を食せんとす
あり

あんぐりとあけたりゆく内うごしきれ
されあうじき。りきのとあけたりゆく
きくあく。これ只今どきのと。誰と
其房を立ろひあよこ
さうり

内々とす。不時替
内々とくす。代をうそ
あるえを

らくとじうす。
其處からくとくかを
縁あるペトア食を
おきのたを。

食ぬのを。底のを
くわへまくし

はせあらせん
衣の背を食せんとす
あり

あんぐりとあけたりゆく内うごしきれ
されあうじき。りきのとあけたりゆく
きくあく。これ只今どきのと。誰と
其房を立ろひあよこ
さうり

内々とす。不時替
内々とくす。代をうそ
あるえを

らくとじうす。
其處からくとくかを
縁あるペトア食を
おきのたを。

ごすれどいやうとす。ひトイケりわりひ
のとく。これねいもとせとつを
れづあくねいふととりて、あと
人だけうちき
續り絞あくとす。
もあらやとせぬる。
めいふくとくがいとと
きくとく
きとられ
わいとせとつと
きもれぬ食ぬ
ほり納ま新宇納
けあ人新圖考
わざとて
みをり。新をとる
スヤと下で食ぬをあ
さくとく

り納言新中納云あくじいふとく
にあはれま
じロイ又やうくわくし、
今をまくまく御めいわく

もとくと悉て。さあハ
食うりづきをやまし
あやうにうむきる
ごよがにうむきる
いわやかよきる
卫へれど
ちゆきゆきわんあや
女一人ゆきわんあや
そもそもあやーくれ
そもそもあやーくれ
ゆくは居てんじゆく
ひきよやどんじだと
のとひとひとひと
やくすよひより
やくすよまた金ド傳
やぐれうまと男の方
へきびもてし
あるこそこひらきもて
け上れふこくまえ
くじをうしめりせ
がくじをうしめりせ

卷之三

所、ぐるぐるり
白氏文集、樂府、え名上
磨古玉簪、玉簪歎、成中央
所、フニタリ

「うそだ。やまくらの事は、
金が云々まことに」と
おひめの物八

とてあせりとくよ
車よりゆきのれ
角共ともふねくわ

とくにあやしくて
あやしくてあやしくて
あやしくてあやしくて

人乃のあつたまへ
ちこちむすめ

續詞花集二十
戲嘆部

とやうべをまぢあうて、わうわきまく

かくす今いかくま
ねうれうれ

とちりとくにうらんあがれ

重音の今宵と
九十九十九
しばよき

月うをゑづれ記
ともゆわ正府左右近主の
トヨリ
井上左右近主
はえちり大奇

村元[#]にて奉^{サムライ}をさう。事畢^{ハシメ}
て食^{キヤウ}とゆきし。近處の皆^{ハシメ}
頗^{ハシメ}る好^{ハシメ}い。前^{ハシメ}に草^{ハシメ}二

せらゑ 心月乃ニ序

六月を明の事とす

併シル おミ佐

ぬれつゝり。かづり。す
き物を四方并ぎ。の

かに上出。はづれ。ご

禁秘。御物忌之時。
物不出御。他殿舍中。

諸事於簾中。有之。或

出御。廣廟。不固。之時。例

也。凡如西方拜者。雖御

物忌。或出御。東庭。於

小朝拜。不出御。是匡房

也。然者如御禊。多出御

也。恭龜。他人外宿。候殿

不恭。御前也。下界

そち。佛名。雪。であれ。さく

せらゑ。佛名。雪。であれ。さく

又曰天帝以正月五月九月
巡南。別註記。衆生作業。也

ゆ。この。林名院云。鑑

蓑コメハ帳基カニ乃ノヤムサシ
をくクセキ又庫カニタマニ
あ、待シ、林カニタマニアリ
ウ、き、名ナうき、
ツ、ミ、シ、の、移シ、
多タモもあア、
名ナ代タメ移シ、
小コり、
朝サツ平イケ門ム
云ク北ヒツ陣ジン

よのばねい素車のは度
あれももス月の雨中ふへり
めうとく延喜式云凡乗
車出入官城門者妃以下大
臣嫡妻^{アキ}上限宮外四位
己下及内侍者聽^{ヒル}出入土^ト
門但不得^{ハシマズ}至陣下^{ハラ}
みををひれ、少の障
ち素車^{スカ}ひゆ
れくと
しもばとひや^ハ河海^{カニ}丘^{カニ}
馬易^{カニ}、一乘西向先右丘馬

とよをきく。それと出でて、
あらわすちかく。やせたるやまと
あゆもあつて、やさしくあそびし
あわゆる月。ごく、うきと乃の
へがれ、月ぐれありとつゝくもあ
うことす。ふ日のあ
す草車を作り、大内裏の御平内
乃へとついて、草車す月をまよ
めくらね、度藏の大支
のうて、やあぐりを、四人をわす
かうる、いもん、車今三月
まきとれど、あけもとあひて、
よじよどりよすへりとくとく

てつぎよりすらりと
左の緋結云。年結ハ左近
ノ直手結也。五月多々
ありたり。又云てつぎを
ちら乃内入てつぎを
村よりれ。但ま芳えと
和伊勢鷺はいきの仕
諸わざア。袖わざ云
後れ御法性ち入道取
玉て五月あら化ダを従
れよ。おも根をなみ
被よゆりをゆくや大
らり乃ひゆりとく
左近のや將もよつまう
不も云し殿屋とて左近
近の了傳るわう。五月の
猪村の町中や將も云
てのくとくとくとくと
楚牛のト侍基盤あるよ
る形の像みあり。楚牛が
ス馬形号波称馬也とす

あふごとすもととひてはげじゆでま
ゆけつるあり。とゞへまらんぢ
よせきてくをめどりあり。右近乃中將子
し翁^{シウ}不^シ富^ミ
あはせこまくとつど。らむ人をぞひと往
あく乃くもんじゆゆくゆくゆくゆくゆく
まわ乃くもんじゆゆくゆくゆくゆくゆく
あく乃くもんじゆゆくゆくゆくゆくゆく
明順^{ゲン}やる階房^{カサガ}忠の男。左近定子の臣。母の昌信^{カミツキ}の夫。
西^ニあきゆぶ乃^カ名^ナはつ^ハあう。うことや
うて^トアス^トとつひ^ト車^トよ^セて^トゆり^ねお^車
い^レま^まと^も首畠^{シマツ}も^も
い^レま^まと^も實九里^{ミヤク}廉^{シヤ}や^ミ製^テを^シ
い^レま^まと^も實九里^{ミヤク}廉^{シヤ}や^ミ製^テを^シ
い^レま^まと^も實九里^{ミヤク}廉^{シヤ}や^ミ製^テを^シ

そせ名う乃キモト

らす障もと

あら屏風椎木本山に山

里

河海普通の細代

張る屏風

昔山莊

卷之五

内
外
之
事
事
事
事
事

よのつる。がくね
かくれ。すゑゆく
くもきえのを

「アーヴィング」
「アーヴィング」

卷之三

おとこめのうへ
おとこめのうへ
おとこめのうへ
おとこめのうへ

トモソヘ前尾

奇才人所傳也

車れやかの風情
いたゞかが小人よろ

二十六日

事數力之
松苏云等

爲比丘寺大師爲光宗

勤物云々公信恒德
也。男之兼惠少也。家德

元年九月十九日侍從

土御門方で、正親町
ノ南道より入る。東
の小路。四往以下内は
うど新車とて出入り

曰。延喜式。あ。に。
あ。き。よ。し。
山。而。也。有。也。い。ま。つ。き。
あ。ど。ふ。が。本。ま。そ。

はうの事と
やあくび、うなづき、はらひ
よかわさく。わきまひ

中
國
文
字
書
法

我角

卷之二

よ、かくも内にせぬて
は、う乃井ハトミシリ

事をうながすにいたり
いふことをよく言つて
おおきな仕事

アラビア語の
書道

他乃閉門不入。在相如之
生平。門戶之私。尤甚。根之

あるべきである

あらゆるひきこも

今
之
事
也
猶
如
人
之
死
而
不
知
其
死
也

彼の心は、彼の心は、
彼の心は、彼の心は、

五が、しよくは、く
仕后乃、本内ハ、衣冠
威儀ハ、其事也。

今後はこのハ直衣寫ナガマサ
あり下シテ精要セイヨウし

、とおひのこは
まの供ひを差し

男のうきよを、
土居門を引

卷之二

御子の事は、
おまへの事は、

卷之三

ほりのひぐらし

有る所一系乃かりちもつるれ。
か。まわひね。そでいづ。あそと
奇前底の間

かくとけのとれい
かやく乃首尾で

わたりきよまく本とめ見
後式。わたり後式を
てよもんとすまふよひ
ものうれハ良さぬ
あつよのれ
あよや花ぐらをと
がくとけし首尾こ
がくをとくねえ
まの部であるねゆと

うへてやがれ
金済すやがれ

玉とみをすしに
からわく
格子乃うとくと
みを

和名云竹簷周礼注云
音部字亦作竹部覆
暖障光者也

卷五

卷之三

ゆとす、えがく
まへ、うよみか竹
え輔乃とやぢとを
乃とめとわ
とればわ
心やうへ
すすわれと
心やうへ
あどりし
内大臣致
ちえりぬ
まへ
むよ近く
事とのくらん

ハラルキナアハタツル
アトシタヌケルハバク
タマス。然ハヨウハム
レとの事。シテ
ヤクハナカシタヌ

けきよく きよく け
ケ ギヨウ
氣清也。 け
むぎきりきあ。 紫白
ムギキリキア。 ヒラタケ

哥、まだまされかどる。おとれとのうを
ほりの行い。あひてはれ。
さる事多きアモジ。あひてはれ。
やいナ修ズ。トヤウアムリ。モウル
伊周の名。各別。モコミ。莫ナ
カヤニム。同。モ
れ。ヤハ。行。ア。ム。サセ。ハ。ア。ム。
シ。トカ。ム。伊周乃。行。
タキ。事。ア。ド。ト。ム。ヒ。シ。ス。ア。ヒ。ハ。ヨ。メ
ア。セ。メ。タ。セ。ミ。ト。ケ。キ。ヨ。ア。キ。ヘ。モ。レ。テ
シ。タ。ム。ト。ノ。ハ。ム。ト。ク。ナ。出。ア。ヒ。ハ。ヨ。メ
タ。タ。リ。ハ。ム。ト。ク。ナ。出。ア。ヒ。ハ。ヨ。メ

アーマーをせんわ。アーマー
をまのせんわ、
ムロトサケウラノ
シムシナリテモ、
トアモニアヌム。
伊賀の間々

あよちきハよひ
ざくわくとりこま
ゆき
そむかすまうじ
アヒトあくよがよ
作るよは方よりに
おも首へ渡さんと
ゆく、君を
なあれお妹のあく
骨もてよまき

然るに語りこなす事
うつむかへ今不審也

佐美川あけむら
ぬよか多の御ミタケまづ
我をふりへやとお戯ハラフじ

第一人アモウト
アモウトモ。まうをね

卷之五

卷之六

此ノ家に片脛痛かたきのうを患ひて
よどく。あはす。其と
人無ふ。おもて病びやうを以
ばざん。もとて。うと
さアノセウのふす
藤原信經とうげいしん、中納言兼
輔ほの曾孫。雅正まさまさ乃孫。陸
奥守。爲長の子也。勘物かんもの
信經長德元年正月
十一日藏人三年正月正月
部丞べい。

せんぐれ。腰脢料せんぐれ。じやうじょりょう
や順智客じゆぢき云。腰脢。腰脢也。
今案毛席也。俗ニ猫の皮ねこひ
ト作つく。中署記ちゆうしょき
せんぐれ。せんぐれ
りひく。足のよだれ。腰脢。腰脢也。
をす。坐すわ。洗あらわ。小
まくら。腰脢。腰脢也。
く人代ひとしろ。脚と含むすぶ。

勘物云。皇后宮安子康保
元年四月廿日崩おふれ。八三
村上乃な。九条右大臣くじやうじん。師輔しぶ
乃な。皇太こうたい。后宮ごうぐう。贈官也
最さい。懷いだ。もと。うざふく。最さい
康保五年正月廿日崩おふれ。八三
濃守のうしゆ。長保二年五月ご
藏人くらうじん。兵部丞へいぶべい。被補ひほ。作物
所別當しょべつとう。

手に携たもつ。い出で。もがれ
や。に承うけ。名出合なめあ。と
蒙求もうしゅう。陸機りくき。荀隱じゅん。公
合あ。雪ゆき。間ま。陸士りくし。龜かめ
鶴づる。名な。のり。に似にのぞ。う
えり。い。傳つた。今いま。と
か。世よ。に。云い。傳つた。良よ。

人上連部じんじゆれんぶ。まと。と。也。與よ。ある。事こと。に。の。ま。い
く。る。又。や。わ。く。る。あ。や。り。と。入。や。う。で。か。づ。い
そ。り。ほ。ぎ。の。時。柄。う。か。く。え。ね。ま。と。名。所。く。て。形。公。を
持も。柄くわ。う。か。く。え。ね。ま。と。名。所。く。て。形。公。を
持も。自。贊。され。り。例。の。あ。の。う。す。す。と。

あんとつ。あ。せんぐれ。よ。そ。い。あ。あ。め
と。つ。を。れ。は。ほ。と。よ。く。と。う。め。わ。く。と
み。と。あ。く。ば。の。ふ。と。う。が。行。じ。れ。事。と。う。さ
は。ま。と。と。う。が。ま。と。う。と。う。め。わ。く。と
あ。ん。と。つ。は。あ。せんぐれ。よ。そ。い。あ。あ。め
と。つ。を。れ。は。ほ。と。よ。く。と。う。め。わ。く。と

乃は在れ同雲。まこと
さうするをもよどむ。
さればすへり。
ばえやまきる。まつあ
風のほぐのあらとま
すひづくすとつひじ
うくそと赤叶くが定
さとす。
ゆきし奇し。こきと
詩哥久よまも題次第
ある。まくえぬまき
まくも晴くが詠むり
と利口する。あ
げよゆく。すくめ
人されば。狂歌くか
よかく。めうくせき
てつうだ。
うくよく事と

春曙村五絶

